

---

Kiyo Sakaguchi奨学金

---

募集のご案内

数学というフィールドで未来を拓く  
次世代を担う人材を応援します



ブルデンシャル生命保険は、1987年に創業しました。

以来、当社は「我々は、日本の生命保険事業の在り方に变革をもたらし、日本の生命保険市場において顧客から最も信頼される会社となる」ことを企業のビジョンとして掲げ、既に飽和状態といわれていた日本の生命保険業界に新たなチャレンジャーとして参入し、大きく飛躍してまいりました。

ブルデンシャル生命保険の挑戦の歴史は、ある一人の青年の夢にまでさかのぼります。

## 一青年のあこがれと挑戦

---



ブルデンシャル生命保険の創業者・坂口陽史は、終戦直前に熊本県・天草に生まれ、その後長崎県佐世保市の貧しい家庭で少年時代を送りました。

時は折しも朝鮮動乱期、前線に最も近い米軍基地を擁する佐世保には、大量の米軍の人と物が送り込まれていました。

基地の町・佐世保でアメリカの息吹を一身に受けた坂口少年は、遠いアメリカへのあこがれを募らせ、基地に住む従軍牧師の家の戸をたたきました。そして、牧師から英語を習いアメリカについて学び、牧師の厚意により18歳の時に奨学金を受けてアメリカに留学することになったのです。まだ一般人の海外への渡航はまもなくならなかった

時代でした。

坂口はあこがれと決意を胸に単身アメリカに渡り、ペンシルベニア州レバノン・バレー大学に進学しました。

勇躍アメリカには着いたものの当初英語がほとんど話せなかった坂口は、かねてから得意だった数学を専攻科目として選びました。アメリカ渡航時に貧しい両親が渡してくれたのは片道切符だけでした。坂口は血洗いに溶接工という重労働のアルバイトで生活費を稼ぎながら苦学を続け、大学を卒業し、その後大学院に進みました。

## 生命保険がもたらしてくれた新たな人生

---

坂口陽史には学生時代から生命保険との不思議な縁がありました。

生活のためのアルバイトの激務で憔悴しきっていた坂口を心配して担当教授が紹介してくれたのが、生命保険会社で事務作業に携わるかたわら勉強を続けられるインターンシップという仕事でした。

また、坂口が愛する女性と結婚し、新生活を始められるきっかけを作ってくれたのも生命保険でした。

苦学を続ける坂口を支えてくれたのは、大学1年の時から共に学んだ同級生のアメリカ人女性、ジョアン・コクランでした。心優しいジョアンは、坂口にノートを貸し、英語を教え、アメリカで苦学を続ける坂口を励ましました。

やがて、二人は大学卒業と同時に結婚しようと約束しました。しかし、二人の結婚は簡単なものではありませんでした。

坂口は、卒業を報告するために一旦帰国。その際に、結婚を報告しすぐにアメリカに戻るつもりでしたが、なかなか両親に結婚のことを言い出せませんでした。そして、いざ言い出してみると予期した通り両親は青い目の女性と結婚してアメリカに住むなどということに大反対でした。

ジョアンは、坂口の両親が反対するであろうことを予期していました。

そこでジョアンは日本に戻る坂口に、両親が将来のためにと自分にかけてくれた生命保険の解約返戻金を持たせたのです。

坂口は、ジョアンが持たせてくれたお金でアメリカに戻り、残りのお金で引越し家具を買い二人の新生活を始めたのです。若き坂口陽史夫妻の新生活のスタートを支えてくれたのが、生命保険だったのです。

## 生命保険の専門家 アクチュアリーに

そういう縁もあって、ノース・イースタン大学大学院へと進んだ坂口が目ざしたのは、生命保険における数学の専門職アクチュアリーという資格※でした。そして、働きながら勉強を続けた結果、アメリカ人ですらなかなか合格しないといわれる超難関、米国アクチュアリー試験に日本人第一号として合格したのです。

18歳でアメリカに渡った時にはアメリカの中学生並みにも英語を話せなかった青年が、今やアメリカで高度な専門職としての資格を獲得したのです。

その後、坂口はアメリカにおいて生命保険の専門家としてキャリアを確立、いくつかの生命保険会社で働き、また独立したコンサルタントとしても活躍しました。

## 当時世界最大の生命保険会社・米国プルデンシャルの日本法人の代表に

そして、1970年代、日本進出を検討していた当時世界最大の生命保険会社米国プルデンシャルにスカウトされ、日本に戻りプルデンシャルの日本法人の設立業務を担当することとなりました。

プルデンシャルはソニーと合併で1979年ソニー・プルデンシャル生命保険株式会社を設立。坂口は、同社の副社長となりました。その後、プルデンシャルとソニーは合併を解消し、プルデンシャルは単独で日本法人プルデンシャル生命保険株式会社を設立。坂口は同社の社長、その後会長となりました。坂口は、ゼロからスタートした生命保険会社を大きく育て上げたのです。

その功績により、坂口は、1998年には米国プルデンシャルの役員兼国際保険部門の最高経営責任者となり、日本のみならず韓国、台湾など世界中に生命保険ビジネスを展開し、成功させることになりました。

若くして一人アメリカに渡った坂口陽史は、数学というフィールドで努力とチャレンジ精神をもって自らの道を切り開いていきました。

坂口陽史は、2002年、惜しくも58歳で急逝しました。

私どもプルデンシャル生命保険は、故・坂口陽史の遺志を継ぎ坂口陽史のように数学を専攻し、留学してさらに勉強を重ね、自分の将来を切り開いていきたいと希望される次世代の人材を応援したいと考えています。

### ※ アクチュアリーとは

生命保険会社や損害保険会社で、保険料の算定や年金の掛け金の算定を行なう人のことです。具体的には、保険に関わるリスクや収益性を検証し、死亡率や損害率、その他金利状況などの各種前提条件を使って保険料などを算出し、その収益性を検証するのが主な仕事です。また、会社の財政状況を確認し、会社の健全性や年金制度等の公正な運用の確認を行っています。具体的には、決算時点で将来の保険金等の支払いに問題ないか等健全性の確認を行います。

日本の場合、アクチュアリーになるためには日本アクチュアリー協会が行う試験に合格しなければなりません。一次試験5科目、二次試験2科目の試験があり、各科目の平均合格率は約15%くらいです。現状では、保険会社に勤めながら一次試験から受けていく人が大多数を占めています。



学業成績が優秀であり、また数学専攻で米国留学を希望しながらも、  
経済的理由により実現が困難な方のご応募をお待ちしています。

### 【募集要項】

■奨学金：留学中の授業料（最大4年、上限300万円／年間）を支給。  
返済は不要です。

■応募資格：アメリカの大学（院）に留学し、数学専攻を希望する高校生、大学生  
（既に留学中の方、及び、大学院生、社会人は対象となりません）

■応募方法：

[www.prudential.co.jp/shogakukin/](http://www.prudential.co.jp/shogakukin/)

当社ホームページでトップページ＞会社概要＞企業概要＞社会貢献活動への取り組み  
＞Kiyō Sakaguchi奨学金にアクセスし、「エントリーフォーム」よりご応募ください。

「エントリーフォーム」は①最終学歴・予定大学・専攻・保有資格・自己PRなど  
②小論文 [米国大学への留学希望理由と将来の抱負 (800字程度)]  
③成績証明 ④所得状況 を問う内容となっています。  
※郵便での受付はしておりませんので、ご注意ください。

■選考方法：一次選考 ―― 書類審査  
二次選考 ―― 面接  
※なお、面接時には書類 [①成績証明書 ②所得証明書  
③資格証明書 (エントリーフォームにて申告された資格)] をご持参ください。

■募集人員：1～2名

■募集期間：2012年7月～9月

■応募〆切：2012年9月末日(エントリーフォーム必着)

※応募書類は返却いたしませんので、あらかじめご了承ください。

※当社は、Kiyō Sakaguchi奨学金への応募にあたって取得した応募者の皆様等の個人情報を、同奨学金の選考・運営に利用し、弊社の「個人情報の取扱いに  
ついて」に準拠して保管・管理及び廃棄をさせていただきます。

次のいずれかに該当する場合を除いて、個人情報を外部に提供することはありません。

- (1) 応募者が同意されている場合
- (2) 法令により必要と判断される場合
- (3) 応募者または公共の利益のために必要であると考えられる場合

なお、いただいた情報をもとに、個人を特定できない形式で統計データを作成し、公開することがございます。

### 問合せ先

ブルデンシャル生命保険株式会社 ビジネスクオリティチーム Kiyō Sakaguchi奨学金係

〒100-0014 千代田区永田町2-13-10ブルデンシャルタワー

カスタマーサービスセンター 0120-810740 (通話無料)

もしくは当社ホームページの「お問い合わせ」にご連絡ください。